

と見らるるのぞ唯義長を以て外小家督とせん小忠とと竊小心中を決
 せ。機合うら荒者も義長上洛せり。以て水原軍平正月廿三日將
 軍家へ出仕しり。六ひとらぬ河内賞負あり。河内相傳元の列小加
 させらる。山名一色土波六角武田上杉相の領地河内花守を賜り京都小忠を
 細川をどと河内休元とらふ。政道を執事とせしむ。命出する。然る小久秀義長小初めて西水の宴
 と設けさせ將軍家と請せしむ。將軍いさよと好家へ成せり。是より先強き
 ほど河内相傳元の列あるがゆへ不成らる。二月三日と好義
 長自館とてその小傳朝義進公を初めおらせ。左京法法彦悉く曲水の
 宴小招たる。その日早京蘭亭小初等華々とて流小習きて羽觴を花。飲と評せ
 る人あり。詩と吟とる輩あり。強小樂しと見えし。斯る最中と雖小
 そろや松永弾正とて思ふこと好義長と親書せんと毒酒を贈りてとせ

初め義長を眼小害し。同席の諸侯縁め。是を憎む地小識ると。松永
 が威勢烈し。思ふと口と禁むとや。父長慶人小悟と。飯齋山と
 都まで二時たると小純参り。是を官議かるといふ。更小實事を知らず。悲
 歎小とてあり。家督といふおとと評候と。彈正久秀十河氏部
 大輔一存長慶の子左京家義進と。お續とせしむ。初む長慶純く
 らも小隨の十河が長子義進と。好の家督とらめ。荒者守小仕り。小
 領代小させし。法し後いふと。松永が權威十倍を然ども義進力微小
 して。おとと制止とる事あり。心苦しく過らる。永禄七年七月四日長慶
 病小狂とて。六十之歳と一期と。終小帰家あり。是小因て。好家とて人
 衆と呼ばる。之好日向守長縁同小野と。政奉。若成。主税助。好通。連小松。執
 事。小義進。のありと。都て松永が計ひありと。人危まると。是を嫌む。心中常